

岡本 <sup>ひろむ</sup>大夢さん（公立大学法人県立広島大職員）  
2009年度3次隊 青年海外協力隊  
派遣国：ウガンダ 職種：村落開発普及員  
2020年5月17日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

## 商品づくり 農家を支援

青年海外協力隊として東アフリカのウガンダに旅立ってから10年がたった。現在は、来年4月開学予定の県立の新大学「叡啓大学(仮称)」の設置準備に携わっている。新型コロナウイルスの影響により社会構造が大きく変わろうとしているが、まさにこのような先行き不透明な将来を見据え、粘り強く新しい世界を切り拓き、地域社会や世界に貢献できる人材の育成が新大学の目指すところだ。



支援を受けて作った蜂蜜を陳列する農民グループの代表

2010年1月、ウガンダ西部ブシェニ県に村落開発普及員として赴任し、一村一品運動を通じた小規模ビジネス・地域活性化に取り組んだ。ドライフルーツや米、蜂蜜など市場志向の商品づくりを支援しながら、農民たちの抱える苦悩や課題など生の声を県庁や中央省庁へ伝えることに奔走した。

言葉や文化が異なる中で現地の人々とゼロから信頼関係を築くことに苦労を重ねた。家族のような存在となった村人や県庁職員たちと予期せぬことの連続の中で喜怒哀楽を共有し、心を込めて作った商品を市場に送り込んだ経験は何事にも代えがたい。こう思えるのは一喜一憂せず、目標を見失わない勇気と大切さを学んだからだ。

新しい大学を創るというある意味、協力隊の活動以上に未知なる課題、経験したことのない目標に向かっている。結果を「期待」して待つだけでなくあらゆるケースを「想像」し、先を見据えて楽しみながら日々の業務に取り組んでいる。